

事務事業名	スペシャルチャレンジ・ジュニア事業補助金	所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育推進室	
総合計画体系	政策名	(IV)ふるさとを学び育つまち<教育・文化>	所属G	キャリア教育推進G	課長名	飛田 博志
	施策名	(29)青少年健全育成の推進	担当者名	福島 勇樹	電話番号	0854-40-1073 (内線) 2243
	目的	対 青少年(就学後~30歳未満の市 民) 意 図 社会でたくましく生き抜く力を身に付ける。	予算科目	会計 款 大事業 大事業 0 1 5 0 0 3 項 目 中事業 中事業 2 5 0 5 3 1	社会教育推進事業 スペシャルチャレンジジュニア事業補助金	
	基本事業名	(090)グローバル人材の育成	対象	青少年	意 図	グローバル社会に対応していく力を身に付ける。

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (30年度~)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
将来のチャレンジ人材を育成するため、中高生が長期休業を利用して様々なツアーを自ら探し申請、プレゼン、審査を経て、国内外の研修に参加する費用を助成する。 補助率は10/10で補助金額の上限は300千円。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動					
	30年度実績(30年度に行った主な活動) 中高配置のコーディネーターが募集から申請支援、事前準備に関する伴走支援を行うとともに、実践を経て身に付いた力をさらに次のチャレンジに生かすための支援を行った。 ・アメリカ:高校生2名 ・オーストラリア:高校生1名 ・韓国:高校生1名、 ・カンボジア:中学生3名、高校生1名(市が推奨するプログラム)	元年度計画(元年度に計画する主な活動) 海外の研修のほか、市教委が主催する国内研修(プラチナ未来人材育成塾、マイプロジェクト・アワード東京研修)も推奨プログラムに位置づける。				
	② 活動指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
	ア 事前準備・事後報告会数	回			25	30
	イ					
	ウ					
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
	市内在住の中高生と、市内の中学・高校に通学する中高生		ア 中学生	人			968
		イ 高校生	人			804	820
		ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
	国内外の研修を通して学びたい、力をつけたいと考えている状態から、実際の体験を通して多様な価値観や国際感覚等の様々な力を醸成する。	ア 参加者数	人			8	18
		イ					
		ウ					

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (30年度決算)	② コストの推移	単位	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(計画)
中高生の申請による海外短期留学への補助金・負担金補助及び交付金:2,163千円	財源内訳	千円				
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円			2,163	3,000
	一般財源	千円				
	事業費計(A)	千円			2,163	3,000
	人件費	人			2	
	正規職員従事人数	人			330	
	延べ業務時間	時間			1,430	
	人件費計(B)	千円			1,430	
	トータルコスト(A)+(B)	千円			3,593	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
青少年海外派遣等交流事業のようなパッケージ型の事業では、研修があるから参加するというような受け身的な参加が多かったが、こういう研修を受けたいためにこの事業を活用するという参加者の主体性が発揮される事業である。	この事業を拡大し、将来的にはパッケージ型から移行することができないか検討していく。	青少年海外派遣等交流事業に参加することも一つのチャレンジであり、自己負担の在り方について公平な事業展開を望む声もある(議会)。

事務事業名	スペシャルチャレンジ・ジュニア事業補助金	所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育推進室
-------	----------------------	-----	-------	-----	-----------

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由  「青少年の健全育成」という施策には合っておらず、チャレンジ人材の育成といった項目がふさわしい。そうした人材育成にどこまで公共投資が必要なのか検討する必要がある。
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input type="checkbox"/> 結びついている *余地がある場合 →	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である *余地がある場合 →	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由 事業を利用した生徒は、U.C.C事業や中高生の！幸雲南塾事業など様々な事業に参加し、チャレンジを加速させる活動を行っており、それに刺激を受けた中高生が新たなチャレンジに向かっていく可能性がある。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない		
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		
<input type="checkbox"/> 影響無	理由 パッケージ型の派遣事業は企画・運営面（安全の含め）で担当課の負担が大きく、個人応募型に徐々にシフトしていくためにも、本事業は成果を意識した取り組みとしていきたい。		
<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段（類似事業）はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある *ある場合 → (具体的な手段や類似事業名)	理由 新たに創設した事業であり、中高生個人が補助金を申請・プレゼンし、審査を受けるような事業は他にない。	
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない		
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由 審査により全額補助とするか一部補助とするか、また自己負担を伴う青少年海外派遣等交流事業との公平性も考慮することで、事業を削減できる可能性もあるが、当面は現手法で行っていきたい。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
D 公平性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由 どのような学びにしていけるのか、学びの成果をどうにかしていくのかなど、研修前後の伴走支援が特に重要になるため、職員人件費は削減できない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由 自己負担の在り方について、青少年海外派遣等交流事業との整合性など見直しの余地がある。	
	<input type="checkbox"/> 公平・公正である		
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由) 新たに創設した事業なので初年度としての評価になるが、事業を申請・実施した生徒は、その学びを次のチャレンジにいかそうと努力しており、今後の成果に期待できる。一方で、自己負担の在り方については、全額補助とするのか一部補助とするのかについて、申請内容やプレゼンにおいて成果を意識した審査により判断していきたい。
	A 目的妥当性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
	D 公平性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	

## 3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																				
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																			
	削減	維持	増加																		
向上		●																			
維持			×																		
低下		×	×																		
<p>まずはチャレンジをしたいと思う中高生を増やすため、「中高生の！幸雲南塾」等への参加者を増やしていく必要がある。幸雲南塾からスペチャレ、U.C.Cといった学びの連続性や新たなチャレンジャーの発掘、連鎖など、事業の効果を高めるための仕かけづくりを行っていく。</p> <p>実際に生徒が申請を希望した場合は、学びがより効果をあげるための伴走支援を中高校に配置した各コーディネーターが行っていく。</p> <p>そして、申請内容やプレゼンによって全額補助や一部補助など、他の事業との整合性や公平性を意識した審査を行っていく。</p>	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																				